

# 「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年10月15日（金） NO21 文責 木下 文秋

## 親ガチャ

親ガチャという言葉をご存知でしょうか？若者たちの間で最近使われている言葉だそうです。「ガチャ」とは、ゲームのガチャガチャのことで、お金を入れてカプセルが出てくるまでは中身の商品が分からない状況を人生に重ね「子どもは親を選べない。どういう環境に生まれるかは運任せ」という、どちらかといえば否定的な意味合いで使われている言葉のようです。また、「すべてを親のせいにして努力をしない若者の言い訳」だという見方もあるようです。こうした見方には、努力すれば何とかなる、だから努力することを諦めるな、というメッセージが込められているように見えます。ところで、親ガチャという言葉を経験してみると、自分の人生は親の持つポテンシャル（潜在的能力）に左右されると言うことになります。例えば、両親とも高学歴で、一流大学を卒業していたとすると、その子もなかなか賢い子供でそれなりの学力を「生まれつき」有するという理屈になるのでしょうか。しかし、世の中には親の遺伝子や素質とは関係なく、実力を発揮している人はたくさんいます。親ガチャという言葉を知ると「勝ち組、負け組」とか「格差社会」とか似たような言葉が思い浮かびますが、どれもいい感じではありません。「今でしょ？」で有名な林修さんの言葉に「正しい場所で、正しい方向で、十分な量、なされた努力は裏切らない。」というものがあります。要するに、自分の性格や適性を無視して、全くとんちんかんな希望を持って、その上十分な努力もしないでいても夢は叶わない。ということです。例えば、私が今から「ジャニーズに入りたい」と言ったらどう思いますか？「校長先生、頭おかしくなりましたか？」と誰もが失笑しますよね。今の自分が置かれている環境や自分の適性、個性を踏まえて、それに合致した夢に向けてしっかりと努力をする事が大事だということです。親ガチャという言葉から見えてくるもの。それは、自分の素質や能力に言い訳をせず、現実をきちんと受け止め、正しい努力を積むことの大切さではないでしょうか。そもそも、自分が不幸で満たされないという思いがあったとしても、それを親のせいにするのはみっともないことです。ちなみに、私は今学校の教員をしています。私の父の家系にも母の家系にも、教員は誰もいません。私だけです。私は親ガチャではありません。